

## 人と自然が共存できる里山回復を目指した活動

### ヤマザクラの芽吹きと開花

29日は朝から冷たい雨、その後は雪に変わり、うっすらと道路は積雪で白くなり、気温は一気に冬に逆戻り、花吹雪なら春を満喫できるが季節外れの花冷えの雪は凍てつく寒さになった。

今年は暖冬の影響で花芽は成長が早く、一時的な寒の戻りはあったが、桜の開花は早まりました。活動拠点のヤマザクラは満開、花や新緑の色は個体によって異なるが若葉は赤みを帯び、その若葉と花の白さ、青空に対比する美しさに見入ってしまう。



ヤマザクラの花と若葉

林内には木々の芽吹きが始まる前、赤紫の花びらを下向きに広げて咲く、カタクリが暖かい日に一気に可憐な花を開花させました。

開花後、周囲の草木や樹木に葉が茂り、林床に差し込む光が弱まる頃、カタクリは結実して葉を落とし、再び土の中で来春まで眠りにつきます。カタクリの春は早足に訪れ、早足に去る。この短い生活史は「早春の妖精」と呼ばれるに相応しい愛称です。



早春の妖精カタクリ

### 花ものがたり

丘陵地の半日影の場所で、春先に青白い小さな花を咲かせるヤマドリソウのツボミや花を見つけると「春が来た、暖くなるまで、もう少しだ」と感じます。



春を告げるヤマドリソウ

林内の薄暗い場所でうす紫や白い色を開花させるナガバノスミレサイシンは、長い葉が特長です。林内ではたくさん見られます。



ナガバノスミレサイシン

タチツボスミレは立地を問わず生息しています。花は淡い紫色で葉はきれいなハート形、葉の周りにはギザギザとノコギリのような切り込みが特長です。



タチツボスミレ